

資源循環材料学研究室

卒業生の皆様、いかがお過ごしでしょうか？2026年4月現在、佐藤努教授、竹田宣人客員教授、胡桃澤清文准教授、加藤昌治客員准教授、木下久美子共同研究員、長谷川純子技術補佐員、上杉亜弓技術補佐員、青野沙代事務補佐員、大学院生17名（うち博士課程5名、修士課程12名）、学部学生5名の総勢30名で日々教育・研究に励んでいます。2026年3月には、修士課程の3名が修了して巣立ち（うち1名が博士課程に進学）、学部生5名が卒業（4人が修士課程に進学）しています。

研究室では、全体ゼミやテーマごとのグループゼミを行い、研究に日々邁進しています。現在の研究テーマは、鉱物・岩石材料担当の佐藤が二酸化炭素のネガティブエミッション技術、自然浄化機構に学ぶ鉱山廃水のパッシブトリートメント、ナチュラルアナログ研究、放射性廃棄物処分に関わる鉱物-水-有害物質相互作用、セメント材料担当の胡桃澤がセメント硬化体の微細構造とその物性、多孔体の透過性、凍害劣化・乾燥収縮機構の解明と予測モデルの構築、岩石材料担当の加藤が地熱・温泉熱の有効利用、客員教授の竹田がリスクおよびサイエンスコミュニケーションなどの幅広いテーマに取り組んでいます。研究室の近況・詳細については、当研究室のホームページ（<https://emr.eng.hokudai.ac.jp/>）をご覧ください。また、札幌にお越しの際には、ぜひ研究室にもお立ち寄りください。

